



綾瀬市 総合計画 2030

2021-2030

概要版

令和8年1月改訂版



こんにちは！ぼく、あやぴい。綾瀬市に住むカワセミの妖精だよ。
キラキラおめめがチャームポイント♪
タイムマシンで10年後の未来に行ってきたんだ！
未来の綾瀬はこんなまちになっているよ。

ぼくが毎日飛び回っていた公園が活気とにぎわいにあふれているよ。休日は毎週のようにキッチンカーが並んで、マルシェや地域のイベントが開かれているんだ。たくさんのバラの花も咲いていて、家族で憩える場、市外からも友達を呼びたくなるスポットになっているよ。いろんな人が交流しながら、まちが元気になっている感じがしたよ。



市の真ん中が多くの人でわいわいとにぎわっているんだ。美味しい野菜やお肉を買ったり、農業体験や加工体験をしたりできる新たな名所になっているよ。遠くに住む若者や家族連れも、綾瀬スマートICから来ているよ。レンタサイクルで目久尻川やロケ地巡りを楽しんでいる人もたくさんいるみたい。綾瀬の豊かな自然の中を走るのは気持ちよさそうだね。



市の真ん中には、すてきな商業施設と市の施設があるよ。生涯学習に関する講座やボランティア活動なども盛んに行われているんだ。買い物に来たお母さんたちも、図書館に立ち寄ったり、ついでに「道の駅」まで足を延ばしたりと、ついつい長居をしているみたい。誰もが「行ってみたい！」と思える魅力のエリアになっているんだ。いろんな人が訪れるようになって、人も地域もみんな生き生きしているよ。

バスなどの交通手段が便利になっていたよ。地域でも、“お互い様”の関係で買い物やおでかけができる仕組みができていたんだ。一人暮らしのおじいさんも、地域のお祭りや集まりに行きやすくなって、参加するのが楽しみだと言ってたよ。確かに、元気なシニアの人があちこちで活躍していたなあ。



綾瀬市の未来の姿！

まちおこしのバーベキュー大会を開きたいと思った若い人がいたんだ。その人が声をかけたら、共感した人たちが市民グループが集まって、綾瀬の新たな名物イベントになったんだって。こうした活動がいろんな地域で行われて、まちが盛り上がっていたよ。地域や市民のために頑張る人を応援しようという人が増えているのかも。いろんな活動によって、市民がつながり、地域が支えられているんだね。



地域のコミュニティ施設では、毎週開かれるお茶会が大人気なんだ。お薦めのお菓子をみんなが持ち寄って、仲良くシェアしながらおしゃべりするんだって。参加者の顔触れはいろいろだけど、気さくな雰囲気、初めて参加した人もすぐに仲良くなれるみたい。近くの工場で働くブラジル人青年や初参加のベトナム人の親子もいたよ。ベトナム人のお母さんは「次回は友人も誘って参加したいです。日本語を教えてくださいね」と言って、嬉しそうに帰っていったよ。よかったね。

綾瀬独自の幼児教育も、市内のいろんなところで行われているよ。テストも大事だけど、「生きる力」を重視した綾瀬の子育てが注目されているんだって。初めての子育てで不安だらけだったお父さん、お母さんも、地域の人たちが支えてくれるから、笑顔で子どもと向き合いながら過ごしているよ。幼いころから地域ぐるみで愛情を持って育てられた子どもたちが、きっと次の時代の綾瀬を担ってくれるんだね。



こんなにステキなまちになると思うと、今からワクワクするね♪
これからのまちづくりに向けてみんなで力を合わせていこうね!!



策定の趣旨

総合計画は、自治基本条例の理念に基づき、市政運営の方向性を定める重要な計画です。平成12年度策定の「新時代 あやせプラン 21」が終了し、令和3年度(2021年度)から令和12年度(2030年度)までを計画期間とする新たな総合計画を策定しました。本計画は、前計画の将来都市像を継承する一方で、計画期間を10年に短縮し、時代の変化に柔軟に対応できるようにしたほか、持続可能なまちを目指し、その実現に特化した取り組みである「戦略プロジェクト」を中心とした計画としました。また、本計画を「綾瀬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」としてもみなすこととし、地方創生などの視点を踏まえた取り組みを進めていきます。

令和7年度の改訂では、物価上昇や人手不足、建設費高騰などの社会経済状況の変化、公共施設老朽化、中心市街地活性化の課題に対応するため、基本方針「稼ぐ」に関連する戦略プロジェクトの一部を見直しました。また、国のデジタルに関する総合戦略を踏まえ、「綾瀬市DX推進計画」と関連付けながら、デジタル技術を活用した地方創生の取り組みを推進することとしています。

計画の構成・計画期間

本計画は、基本構想と実施計画の2層構造とします。

基本構想の計画期間は、令和3年度(2021年度)から令和12年度(2030年度)までの10年間とします。

実施計画については、3年程度を見据えた計画とし、毎年度策定します。

基本構想

基本構想は、本市が目指すべき将来都市像及び10年後のまちの姿を定めるとともに、これらを実現するために優先的に取り組む戦略プロジェクトや実現化の方策などを位置付けます。

実施計画

実施計画は、戦略プロジェクトを構成する事業や、市が予算に基づいて実施する各行政分野の主たる事業を位置付けるもので、毎年度の予算と連動しています。

今後の課題

- 01 人口減少・少子高齢社会への対応
- 02 防災・減災に対するニーズの高まり
- 03 市民ニーズの多様化・高度化
- 04 技術革新の進展
- 05 持続可能な行財政経営の推進
- 06 基地との新たな関わり

10年後のまちの姿

これまで本市は、重要な資源の一つである豊富な緑と自然環境、また、いち早く取り組むことで市民生活に浸透してきている生涯学習の風土といった資質を生かしたまちづくりを進めてきました。

今後についても、これまでと同様の考えのもと、誰もがいつまでも住み続けたいと思えるまち、住んでみたいと思えるまちを目指していく視点から、「新時代 あやせプラン21」で掲げた将来都市像である「**緑と文化が薫るふれあいのまち あやせ**」を引き継ぎます。

＼ 10年後のまちに向けた理念 ／

将来都市像を実現する過程の中で、近年は社会情勢が目まぐるしく変化するとともに、全国的な人口減少も加速しており、本市の規模を生かしたコンパクトで効率的な行政経営を進めつつ、生活の豊かさ、質の向上の実現に、より強く結びつく、持続可能なまちづくりがこの10年間で必要となっています。

こうした背景のもと、まちづくりの中心は「物」から「人」に変化しています。本市に関わる一人一人が“つたえる”を大切にし、共に“つながる”を生み出しているまちになることを、10年後に向けた目標として定めることで、強い社会関係資本に基づいた持続的な成長・発展を続けるまちづくりを進めます。

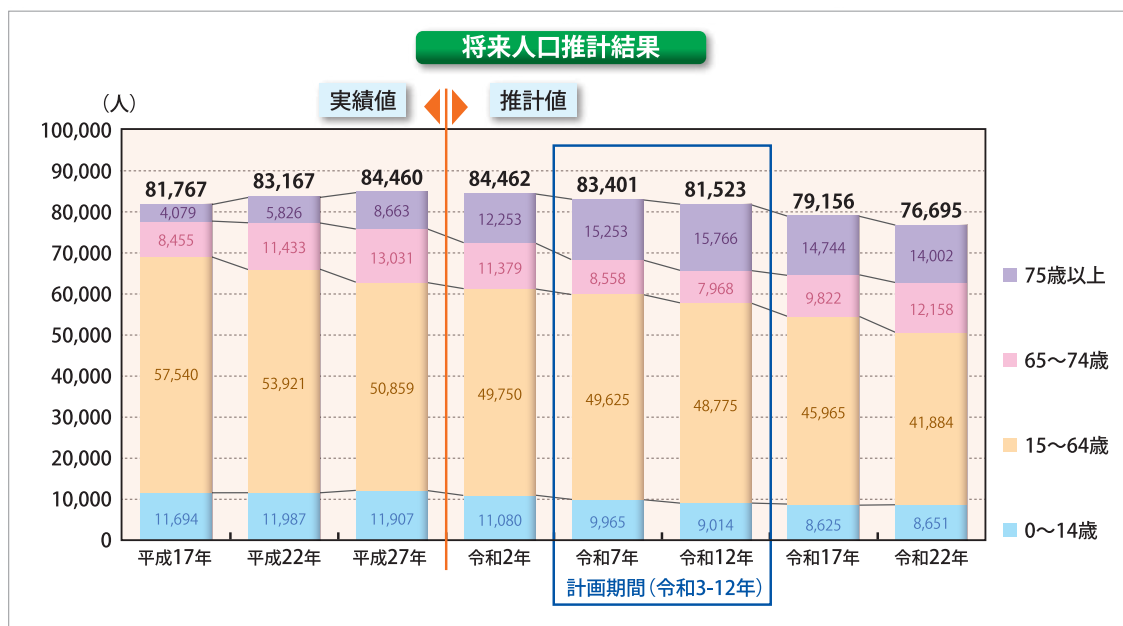
“つたえる”を大切にすまち “つながる”を生み出すまち



将来人口の見込み

本市の人口は、令和2年の84,462人をピークに減少に転じ、本計画期間の最終年である令和12年には81,523人になり、さらに令和22年には5,000人近くが減少し、76,695人になると見込まれます。

今後は、人口減少幅を抑制するとともに、人口減少や人口の年齢構成の変化による影響を軽減しつつ、より魅力的で、より質の高い生活を送ることができる、持続可能なまちづくりを目指していく必要があります。



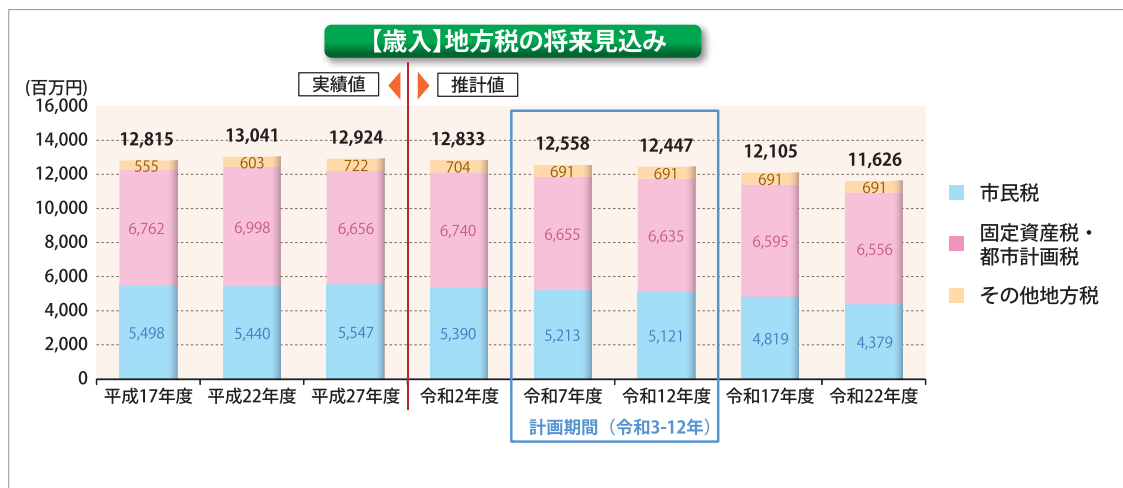
※ 人口推計については、平成27年国勢調査の人口を基準としています。

出生率及び生残率は、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口（平成29年推計）における仮定値を本市の実際の出生数・死亡数に基づいて補正した上で適用し、社会移動については、過去10年間の純移動率に基づいて推計しています。

※ 平成17～27年の年齢別人口は、年齢不詳の人口を年齢構成比で按分して合算しており、按分の際に少数第1位で四捨五入しているため、年齢別人口の合計と総人口が一致しない場合があります。

財政推計

本市の歳入の4割を占める地方税は、現役世代が減少することで、市民税が大きく減少すると推計され、令和22年には、平成27年に比べ13億円近く減少すると見込まれます。



※ 十万の位で四捨五入しているため、各年度の内訳を合計しても全体の数値と一致しない場合があります。

戦略プロジェクト

3つの基本方針に基づき、本市において緊急性、重要性が高く、かつ重点的、戦略的に実施する取り組みを「戦略プロジェクト」と位置付け、計画の実現に向けて14の戦略プロジェクトを展開していきます。

戦略プロジェクトは、次の5つの原則に基づき定めています。

戦略プロジェクトの5原則

- ① 人口減少社会における課題解決に直結すること。
- ② 本市の将来を見据え、10年間で実現すべきビジョンを明確にしていること。
- ③ 優先的に取り組むべき課題に焦点を当て、実現可能性と効果が高いこと。
- ④ 市民と共に協力・連携しながら、取り組みを進めること。
- ⑤ 庁内横断的な取り組み・体制により、実現を図ること。

基本方針と各戦略プロジェクトの取り組み内容や期待する効果は、明確に区分をするものではなく、図のように重なり合い、相互に効果を発揮しながら10年後のまちの姿の実現に結び付いていくものとなっています。



戦略プロジェクト

基本方針「育てる」

文化財、公園などの地域資源の有効活用、魅力向上や市民活動の活性化、地域の担い手づくりなど、次世代の綾瀬を育てる視点でのまちづくりを進めます。

また、幼児教育の推進や多文化共生のまちづくりなどを通じて、人と人とのつながりや地域への愛着、魅力を育み、子育ての場として選ばれ、いつまでも住み続けてもらえるまちづくりを目指します。

育てる 1 | 笑顔あふれる親子が育つまちプロジェクト

目指す姿

子育て支援センターを中心とした地域の子育て支援団体とのネットワークが形成され、一人で悩むことなく、安心して子育てをすることができる環境が整っています。

「生きる力」を育むことを目的とした非認知能力を向上させる取り組みを独自に展開したことで、自ら学ぶ姿勢を示す児童が増えるなど、基礎学力も高まっています。

こうした子育て支援のネットワークによる安心できる子育て環境や非認知能力を向上させる取り組みが特徴である「綾瀬モデルの子育て」が確立し、親子が触れ合いにあふれ、子どもたちが元気でのびのび育つまちになっています。

■ 取り組みの方向

- 地域の子育てネットワーク形成
- 非認知能力の向上支援

育てる 2 | 外国人市民が活躍する多文化共生のまちづくりプロジェクト

目指す姿

外国人市民が地域に溶け込み、相互理解が進む中で、地域の一員として共に安心して生活し、活躍できる環境が整っています。

「言葉の壁」の解消が進むとともに、日本語や日本の文化・社会を学んだ外国人市民が増え、地域や住民とのコミュニケーションが円滑に取れるようになったことで、自主的・自立的な多文化共生活動が展開されています。

自ら創業をする外国人市民が増えています。外国人市民などが経営するさまざまな国の料理店なども増え、市民間の交流や、他市からも人が集まるにぎわいの場となっています。

■ 取り組みの方向

- 外国人市民への行政サービスの充実
- 外国人市民等の活躍の支援
- 多文化共生の促進

育てる 3 | 未来を支える地域コミュニティの仕組みづくりプロジェクト

目指す姿

多くの市民が自らに合った形で多種多様な活動に参加できる環境が整いつつあります。

誰もが市民活動に参加しやすい環境の中で、「できる時にできる人がつながる」自主的で多様な活動が行われ、地域コミュニティが活発化しています。

NPO法人などがコーディネート役として活躍し、地域が抱える課題や地域・行政の担い手不足の解消が進んでいます。

自治会活動が活発になり、各地域の歴史や伝統などの継承、地域のニーズに合った自主的な活動にも積極的に取り組まれ、地域の活性化につながっています。

取り組みの方向

- 自治(会)機能の強化・充実
- 多様な市民活動の仕組みづくり
- 市民活動団体等の一層の活性化

育てる 4 | 特色ある公園活用プロジェクト

目指す姿

光綾公園では、バラを目当てに市の内外から多くの人々が観光に訪れるようになり、蟹ヶ谷公園や城山公園でも、花や歴史・文化といった特色を生かした整備や他の観光資源などと合わせた活用が進み、市民の自慢の公園となっています。

地域の身近な公園では、市民とともに公園づくりが行われ、憩いや交流、レクリエーションの場など、地域のニーズに沿った活用がされています。

地域に愛される公園は、住民参加による維持管理活動が行われ、より使いやすく、人々にぎわう魅力ある公園として育まれています。

取り組みの方向

- 人を引き寄せる魅力ある公園づくり
- それぞれの特長を生かした公園づくり

育てる 5 | 目久尻川流域の歴史文化形成プロジェクト

目指す姿

目久尻川流域の歴史文化資源の価値や魅力を住民自らが再認識し、地域への誇りや愛郷心といった「郷土への強い想い」が醸成されています。

あやせ目久尻川歴史文化ゾーンの形成に向けた基盤整備と、地域住民及び歴史文化ゾーンの支援者などの活躍により、歴史・文化資源等の維持・継承と活用体制が整うことで、目久尻川流域の歴史文化や原風景を楽しみながら憩い、また学ぶことができる空間となり、市内外から多くの人々が訪れる交流空間が形成されています。

取り組みの方向

- 地域住民が誇ることのできる郷土づくり
- あやせ目久尻川歴史文化ゾーンの整備・展開

戦略プロジェクト

基本方針「稼ぐ」

農・商・工の産業振興を進めるとともに、市の認知度向上に資する取り組みを進め、積極的な「稼ぐ」視点での地域経済の活性化を図ります。

また、市のにぎわいの拠点となる中心市街地のリニューアルや活性化を通じて、市民同士や来訪者との出会いといった交流機会を生み出すまちづくりを進めます。

稼ぐ 1 | あやせ産業連携プロジェクト

目指す姿

農業、商業、工業、市内外の関係機関との連携が進み、地域にある資源を生かした新たな「まちの魅力」が創出・発信され、多くの人々が訪れ、集い、にぎわいにあふれています。

綾瀬で生産されたものがさまざまな場所で販売され地域で活用されることで、地産地消の意識の高まりとともに「まちの魅力」や「住みやすさ」も向上し、シビックプライドも醸成され、定住人口や交流人口の増加につながり、活力あふれるまちになっています。

■ 取り組みの方向

- 産業各分野の連携の推進
- 「あやせ産業全体のブランド化」の促進
- 販路の開拓・販売促進

稼ぐ 2 | あやせ工場プロジェクト

目指す姿

社会情勢や景気変動に対応できる強い企業力を持った企業が増えています。

本市では、積極的な展開をしていく企業を応援しており、従来の自動車産業から、成長が見込まれる新たな産業への参入を図っている企業や、海外展開をしている企業、IoT化やロボットなどの新技術導入による生産性の向上を図っている企業が多く現れています。

「あやせ工場」として、企業間ネットワークが構築され、共同受発注のスキームが確立されているほか、次世代の担い手が育ち、事業承継や技能継承も円滑に行われています。

「ものづくりのまち綾瀬」のブランド化が進み、全国的に広く認知されています。

■ 取り組みの方向

- 技術力の向上に向けた支援
- 「ものづくりのまち綾瀬」のブランド化促進
- 担い手づくりへの支援

稼 ぐ 3 | あやせ農場プロジェクト

目指す姿

農畜産物のブランド化や、市の内外への販路が確立・拡大することにより、多くの人々に綾瀬産農畜産物が親しまれるとともに、本市が非常に品質の高い農畜産物の産地であることが広く知られています。

地域の支援を受けながら就農準備や営農ができる環境から、新規に農業へ参入する若者も徐々に増え、市内農業の持続性も高まっています。

農畜産物の高付加価値化と「農」の魅力向上により「稼ぐ農業」が推進され、本市を農業がしやすく、続けやすい場所にしていく「あやせ農場」プロジェクトが進んでいます。

■ 取り組みの方向

- 稼ぐ農業の推進
- 農業への新規参入の支援

稼 ぐ 4 | 中心市街地の魅力と地域活力UPプロジェクト

目指す姿

中心市街地では、これからの本市の活性化を促進する舞台として、既存施設と新規施設の相乗効果による利便性や魅力の向上から新たなにぎわいが創出されています。

民間活力により、買い物、食事、趣味、教育、文化などが楽しめる施設が整備され、集客力が高まり、地域経済が活性化しています。

■ 取り組みの方向

- 中心市街地の魅力と利便性向上
- 綾瀬スマートICを活用した地域活力の向上

戦略プロジェクト

基本方針「支える」

支え合いによる大規模自然災害への備えの充実や、鉄道駅が無いという本市の特性を踏まえた移動手段の充実など、安全で快適な暮らしを支える基盤を形成します。

また、誰もが健康で充実した生活を送ることができる生活環境づくりや、さまざまな形で活躍できる機会や場の創出を進めるとともに、そうした活躍の舞台となる公共施設の再編などを進めることで、市民の暮らしの質の向上を図ります。

支える 1 | アクティブ・シニア応援プロジェクト

目指す姿

本市の高齢者は、皆が元気で、さまざまな場所で活躍しています。

定年後も元気に仕事を続ける人や、地域や趣味の場で活動する人など、それぞれの希望に応じた多種多様な活動により社会参加をしています。

アクティブ・シニア応援窓口(以下「応援窓口」)は、多様な世代も集まる場として多くの市民に親しまれるとともに、その場に集う人々の信頼・支え合いが育まれ、新たな活動が創出される環境ができています。

■ 取り組みの方向

- 元気高齢者の就労希望の実現
- 元気高齢者の地域等での活躍の場の創出

支える 2 | あやせ流健康習慣定着プロジェクト

目指す姿

健康を意識した食事の取り方や、自主的に体を動かす習慣が定着し、多くの市民が健康に過ごしています。

生活習慣病の罹(り)患者、特に、糖尿病に起因する透析患者数が減少するなど、健康度の向上、重症化予防が進み、充実した人生を送ることができる市民が増えています。

元気に老後を迎えた市民が、自発的に多種多様な活動に参加して、自らの健康を保持し、地域の活性化にも貢献することで「健康で元気なまち」としてのイメージが生まれています。

■ 取り組みの方向

- 健康的な食習慣の定着化
- 健康的な行動習慣及び運動の定着化

支える 3 | 大規模自然災害対策プロジェクト

目指す姿

近年頻発化している大規模自然災害に対し、市民の生命・財産を守るため、地域と行政が総力を挙げて備えています。

多くの市民が防災に対して高い意識を持つとともに、そうした市民の防災活動を支える行政の体制が整っており、本市の人口規模だからこそできる「地域と顔の見える関係」が築かれ、誰もが安心して暮らせるまちになっています。

避難所の質が向上し、災害時にあっても普段と変わらない生活ができるほか、災害からの早急な復旧・復興ができる体制が整い、災害に強いまちとして、市の魅力が高まっています。

■ 取り組みの方向

- 地域の防災・減災力の向上
- 復旧・復興対策の充実

支える 4 | 誰もが便利な移動手段強化プロジェクト

目指す姿

多様な移動ニーズに対応した取り組みが進むとともに、コミュニティバスのルート等の見直しや路線バスとの乗り継ぎの利便性が向上することで市内外への移動が容易になっています。

パーク＆バスライドにより高速バスの利用が容易となるほか、リムジンバスが市内で乗降できるようになることで、遠距離への移動利便性も向上しています。

身近な暮らしの移動手段として、地域住民が主体となって運営する移動支援など、移動に関する選択肢が増え、高齢者や障がい者、子育て世帯を含め、誰もが気軽に外出できるまちになっています。

■ 取り組みの方向

- 公共交通の利便性向上
- 地域における移動手段の充実
- 複合的な交通手段の展開

支える 5 | 次世代につなげる公共施設改革プロジェクト

目指す姿

地域施設では、施設機能の集約・複合化による規模縮小を図りつつ、地域のニーズに合わせた利便性の向上、防災機能の強化などが進み、交流や地域活動の場として親しまれています。

市域施設のうち、障がい児福祉施設では、多様なニーズに対応する専門性が確保され、療育の質の向上とケアの充実が進み、中心市街地周辺の公共施設では、商業施設と連携した再編による新たなにぎわいが生まれています。

学校施設では、将来の子どもたちのための施設の在り方の議論が市民と共に重ねられ、学習環境の質の向上と公共施設マネジメントの両立を目指した取り組みが進んでいます。

■ 取り組みの方向

- 基本方針に基づく公共施設の再編と質の向上
- 公共施設マネジメントの促進

実現化方策

10年後のまちの姿を実現するためには、単に戦略プロジェクトの取り組みを進めるのではなく、常に成果を意識しつつ、必要な情報、資源、手段を駆使し、市民や事業者との連携を高め、行政としての政策実行力を向上させていくことが必要です。

こうしたことを踏まえ、次の6つを実現化方策として設定します。

1 情報の共有

情報の受発信の強化や活用などを通じて、市民・事業者・行政が連携しながら戦略プロジェクトに取り組める基盤形成が必要です。

2 地域資源の有効活用

戦略プロジェクトの実現に向けて、地域が有するさまざまな資源を有効活用していくことが大切です。

3 担い手の育成

戦略プロジェクトを実現するためには、各プロジェクトの具体的な取り組みを担う人材の育成が欠かせません。

4 共創*の推進

戦略プロジェクトの実現に向けては、市民・事業者・行政が「共に創り出す」関係づくりが大切です。

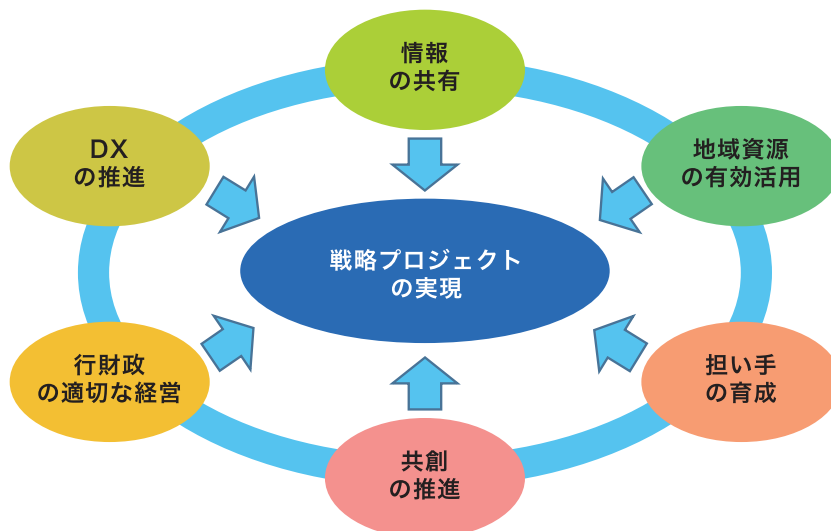
5 行財政の適切な経営

多様で高度化する課題の解決に向け、問題解決力や企画力等を有した職員の育成を含めた、効果的・効率的な行財政経営が求められています。

6 DXの推進

「だれもが便利で簡単に、生き生きとした暮らし」に向け、デジタル技術を活用して、市民サービスの利便性の向上と地域の課題解決を進めていきます。

これらは、戦略プロジェクトの実現に向けた共通の基盤であるとともに、相互に連携することで実現化方策自体が相乗効果を生み出しながら、戦略プロジェクトを推進していくことを目指します。



「共創*」の考え方

市民・事業者・行政などの各主体が、共に創り出すことを目指して、「参加」「参画」「協働」を超えた新たな地平でパートナーシップを形成することにより、革新的な活動や成果を生み出すこと。

計画の進行管理

01

進行管理の体制

本計画については、市民や有識者などからの専門的、又は幅広い視点からの意見を取り入れながら、リスクマネジメントも含めて、定期的な進行管理を行います。

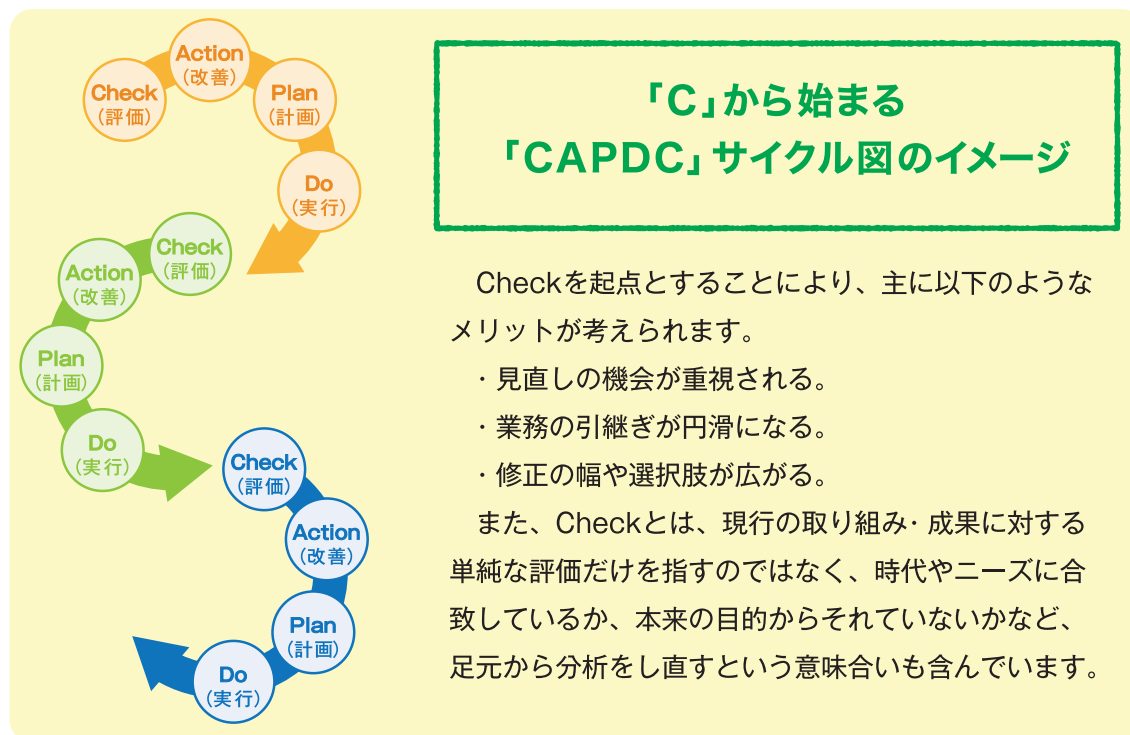
進行管理による評価結果については、効果的なフィードバックがなされ、改善につなげられる体制の構築を進めることで、その後の取り組みに生かします。

02

「CAPDC」サイクルへの転換

従来の「PDCA」ではなく、現状の評価から始め、改善後もしっかりと評価を行いながら事業展開につなげる「CAPDC」サイクルを定着させることにより、戦略プロジェクトの実施状況や関連事業の進捗状況も踏まえ、実施計画の見直しとも連動させつつ、実効性が向上する仕組みを構築しながら進行管理を進めます。

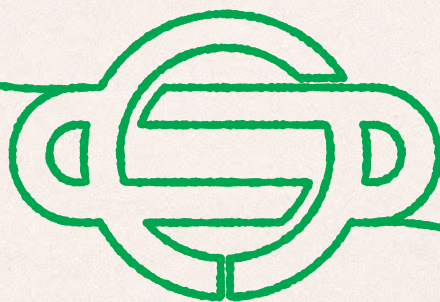
※ PDCAサイクルとは、Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。



綾瀬市総合計画 2030 【2021-2030】概要版

発行
令和3年1月 綾瀬市
〒252-1192 神奈川県綾瀬市早川550
TEL 0467-77-1111(代表) FAX 0467-70-5701(代表)
<https://www.city.ayase.kanagawa.jp/>

改訂 令和8年1月 綾瀬市



表紙のコンセプト

綾瀬市の10年後に向けて取り組む3つの基本方針「育てる」「稼ぐ」「支える」を表しています。

これらの基本方針に基づく綾瀬市のまちづくりは、市民一人一人が“つながる”ことで想いが“つたわり”、より良い未来がかたちづくられていきます。一筆書き風のイラストで仕上げることで、“つながる”大切さを意識しています。